

研修報告書 No.17

所属：東京大学医学部附属病院 初期研修医

氏名：増田 大晃

研修先：梶原町立国民健康保険 梶原病院、
津野町国民健康保険 杉ノ川診療所

令和元年12月2日から12月27日まで、地域医療研修として、高知県高岡郡梶原町にある梶原病院（うち2日間は津野町にある杉ノ川診療所）にて研修させていただいたので、ご報告申し上げます。

12月2日、冷たい雨の降る羽田空港を9:20に出発し、1時間半程度で高知龍馬空港に到着しました。空港では、高知医療再生機構の方々に暖かく迎えていただき嬉しく思いました。空港から外に出ると、雲の間からは青空を垣間見ることができ、空気は澄んでいて気候は暖かく感じました。空港から梶原病院までは、車で送迎していただき、2時間程かかりました。途中カーブの多い山道を走るうゑに、当日は風邪気味で車酔いしてしまいましたが、体調を気遣っていただき、何度か休憩を挟んでいただき梶原病院に無事到着しました。高知医療再生機構の方々にはお気遣いいただき、大変感謝しております。

梶原町は、高知県の北西部、標高410mに位置し、人口は3,400人程度、四方は山々に囲まれている町です。病院の前には四万十川に合流する梶原川が流れており、清閑な雰囲気漂っています。病院周辺の町並みはとてもきれいで、メインストリートには電柱がなく、自然エネルギーの普及率が高いそうです。また、隈研吾氏が設計した建造物（役場、温泉、図書館など）が町中に多く、そのどれもが洒落ています。気候は、空港とは打って変わって非常に寒く、防寒対策は必須でした。

梶原病院は、町唯一の病院で地域医療の中樞を担っています。入院病床数は30床程度で、血液検査、エコー、心電図、CT、レントゲン、消化管内視鏡などの設備が整っており、毎日多くの患者が様々な主訴を抱えて外来受診します。研修では、外来、入院、処置、検査などを通じて数多くの症例を経験することができました。中でも、褥瘡、外傷、熱傷などの創部処置は今までの研修で学ぶ機会が少なく、創傷被覆材を始めとする処置の選択や、手技、創傷治癒の過程を学ぶことができました。

週に1回、入院中の患者について医療と行政の立場から退院後の生活について話し合う「ケアプラン会」という会議があります。議題は非常に細かく、本人のADLや適応される福祉サービスについてはもちろん、患者やその家族が車の運転が可能か、今後の通院方法はどう確保するかなど、より生活に寄り添った内容が話し合われています。

季節柄、インフルエンザの予防接種を注射する機会が多くありました。今までに医療従事者同士で打ち合うことはありましたが、インフルエンザの予防接種を何十人も一度に注射

することはありませんでした。皮下注射の手技自体は難しいものではないですが、「どうしたら痛みが少なくなるのか」、また「消毒から、抜針し止血絆創膏を貼るまで、どうしたら一番時間短縮につながるか」を考える絶好の機会となりました。

また、ある患者が外来で急性冠症候群の診断となり、転院搬送を行うときに、ドクターヘリを使用した症例を初めて目の当たりにしました。私は外来での診察を手伝い、病院からヘリポートまで救急車に同乗し、ドクターヘリとドッキングしました。診断から転院に至るまで、梶原病院の医療スタッフ、救急隊、提携する医療機関との連携が非常にスムーズで早く、目の前で患者を乗せたヘリが飛び立った時には感動を覚えました。

臨床研修の到達目標に「地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療について理解し、実践する。」とあります。今回の梶原病院での地域医療研修を通じて、目標は十分に達成することができたと考えています。末筆ではございますが、このような充実した地域医療研修の機会を与えてくださった、梶原病院の医療スタッフの方々、高知医療再生機構の方々に感謝申し上げます。